

令和 8 年度 第 1 回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
開催日時	令和 8 年 6 月 30 日 (火) 14 時 00 分～16 時 30 分
開催場所	石橋文化会館 2 階 小ホール
委員等の 出欠状況	・ 委員 (25 名) 出席 20 名 (会場 19 名、web 1 名) 【うち代理 4 名】、欠席 5 名 ・ 臨時委員 (6 名) 出席 4 名 (会場のみ)、欠席 2 名 ・ オブザーバー委員 (1 名) 出席 1 名 (会場のみ)
議事概要	1 開 会 2 会長挨拶 (牧野会長) 3 委嘱書交付及び副会長・監事の指名 〔事務局より〕 (1) 委員名簿及び席図をもって委員の紹介 (2) 委員、臨時委員 31 名中 24 名の出席をもって、設置要綱第 10 条第 2 項に基づき会議成立を報告 (3) 傍聴希望がなかったことを報告 4 議 事 (1) <u>議案第 1 号 令和 7 年度久留米市地域公共交通会議事業報告及び決算について</u> 〔主な説明内容〕 ・ 令和 7 年度の事業内容について (1) 「よりみちバス」の運行 (2) 公共交通マップの作成 (3) 次期地域公共交通計画の策定 ・ よりみちバスの利用状況について 北野・城島両地域の利用者数、運賃別利用者数、収支状況等を説明。 ・ 決算について 歳入総額：20,559,698 円 歳出総額：16,875,698 円 翌年度繰越額：3,684,000 円 ・ 監事による会計監査を報告。 〔議案第 1 号の主な質疑応答〕 なし ●議案第 1 号は議案通り承認する。

項 目	内 容
議事概要	(2) <u>議案第 2 号 令和 8 年度久留米市地域公共交通会議事業計画及び予算について</u> 〔主な説明内容〕 ・令和 8 年度の事業計画について (1) 「よりみちバス」の運行 (2) 公共交通マップのデジタル化 (3) 次期地域公共交通計画の策定 ・令和 8 年度の予算について - 歳入総額：7,766,000 円 - 歳出総額：7,766,000 円 〔議案第 2 号の主な質疑応答〕 なし ●議案第 2 号は議案通り承認する。 (3) <u>議案第 3 号 よりみちバス「インガット号」の運行事業者の変更について</u> 〔主な説明内容〕 ・城島地域を運行するよりみちバス「インガット号」は、平成 27 年度運行開始以来 2 事業者にて運行していたが、その内 1 事業者より運転士不足により運行継続が困難であるとの申入れを受けた。協議の結果、当該事業者が運行していたルートについては、もう一方の事業者が運行することで継続していくこととなった。 ・国庫補助活用に必要な「地域内フィーダー系統確保維持計画」に、運送事業者及び運行ルートが記載されているため、運行事業者の変更に伴い、計画書の内容を変更する。 〔議案第 3 号の主な質疑応答〕 なし ●議案第 3 号は議案通り承認する。 (4) <u>議案第 4 号 令和 9 年度久留米市地域公共交通計画（地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係）の策定について</u> 〔主な説明内容〕 ・生活交通検討会で事前に協議した事業の目標等を時点修正。 ・事業目標について、令和 7 年度の利用実績が両地域とも目標

令和 8 年度 第 1 回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
議事概要	値を達成していなかったことから令和 8 年度は両地域の検討会議で据え置きとしたい旨の協議がなされている。 ・承認いただければ、「北野地域、城島地域の計画について構成員からの合意を得た」旨記載し、国に提出・申請したい。 〔議案第 4 号の主な質疑応答〕 なし ●議案第 4 号は議案通り承認する。 (5) <u>議案第 5 号 令和 8 年度久留米市生活交通確保維持改善計画（地域公共交通バリア解消促進等事業）の策定について</u> 〔主な説明内容〕 ・バリアフリー化の事業（ノンステップバス導入・待合乗継環境の向上）を実施するにあたり、当計画の策定が必要になる。 ・令和 8 年度の事業としては、ノンステップバス 2 台導入と青少年科学館前のバス停留所の上屋整備を計画している。 〔議案第 5 号の主な質疑応答〕 なし ●議案第 5 号は議案通り承認する。 (6) <u>議案第 6 号 西鉄バス 55 系統「西牟田線」の廃止について</u> (7) <u>議案第 7 号 路線バス「西牟田線」の代替交通について</u> 〔主な説明内容〕 ・当該路線は、平成 16 年度より久留米市と筑後市で赤字補填を行っている路線であり、現在、平日及び土日祝日ともに 1 日 4 便で運行している。 ・西鉄バス久留米株式会社の運転士不足の現状および他路線への影響を考えると当該区間を運行する路線の見直しはやむを得ない状況と判断せざるを得ない。 ・利用者等への影響を最小限にするための措置を行うことを条件として、調整を進めたところ代替交通による運行の協議が整った。 ・代替交通は、久留米西鉄タクシーによる運行で、ハイエースにダウンサイジングし乗車定員は 9 名になる。運行ルートは本山～JR 荒木～西鉄大善寺駅～JR 羽犬塚駅。運行本数は 2 便増便した 1 日 6 往復。 ・補助要件である 1 日当たり 15 人以上の輸送量を確保するため

令和 8 年度 第 1 回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
議事概要	に交通事業者と連携し、利用促進を図っていききたい。 ・ 運賃については、市内間 1 回 300 円、久留米市～筑後市間 1 回 400 円。運賃協議分科会で承認を得たことを報告。 〔議案第 6 号、7 号の主な質疑応答〕 （委員）ダウンサイジングするが定員を超えた場合、追走等の対応は予定しているか。 利用状況によっては、大幅な見直しも必要になるかもしれないが、本格運行するのか。 （事務局）追送の予定はない。定員を超えた場合は、次の便を待ってもらう。 今回は本格運行であり、期限も切らない。補助金の関係もあるため、利用状況に応じて再検討の必要はあると考えている。 ●議案第 6 号、7 号は議案通り承認する。 （8）<u>議案第 8 号 西鉄バス 4 5 系統「江見線」の廃止について</u> （9）<u>議案第 9 号 路線バス「江見線」代替交通の乗入れについて</u> 〔主な説明内容〕 ・ 当該路線は、西鉄久留米から豆津橋を渡り佐賀第 2 合同庁舎までを運行。赤字路線ではあるが、久留米市内での利用が多いため、久留米市での赤字補填は行っておらず、佐賀市神埼市みやき町の 2 市 1 町にて赤字補填をしている路線。 ・ 西鉄バス佐賀株式会社より令和 6 年 2 月 1 日付けで、運転士不足・運行見直しによる廃止の申し出が提出され、関係市などを含め協議を進めてきた。佐賀県の 2 市 1 町による代替交通の協議が整った。 ・ 代替交通は、有限会社ジョイックス交通による運行で、基本的に現行の運行形態を引き継ぐ形で運行。実施主体は、佐賀市神埼市みやき町の 2 市 1 町で共同運営。 ・ 運賃に変更はなく、現金のみの取り扱い。 ・ 現在の江見線の運行形態等の変更はないため、久留米市としては、市内の他路線への影響はないものと考えている。 〔議案第 8 号、9 号の主な質疑応答〕 なし ●議案第 8 号、9 号は議案通り承認する。

項 目	内 容
議事概要	5 報 告 (1) <u>報告第1号 久留米市地域公共交通網形成計画の達成状況について</u> 〔主な説明内容〕 ・ 8つの指標について、数字の推移・目標値の達成状況・数字の変化に対する要因を説明。 ・ 指標2のみ「目標値を達成する見込み」、指標1・5～8は「目標未達であるが一定の効果はある」、指標3・4は「目標達成には努力を要する」と評価した。 〔報告第1号主な質疑応答〕 (委員) 指標3の「生活支援交通の導入校区数」と指標5の「ノンステップバスの導入率」が伸びなかった理由を教えてください。 指標8の「公共交通に対する市民の満足度」については、普段車を利用できない方に対して調査をしてみると実態が分かっていると思う。 (事務局) 指標3の「生活支援交通の導入校区数」が伸びていない理由は、コミュニティタクシー制度の事務局をまちづくり振興会で担ってもらっており、その事務負担の増を懸念されていると聞いている。 指標5の「ノンステップバスの導入率」が伸びていない理由は、期間の中頃に新型コロナウイルスの影響で投資が抑制されたためだと考えている。 指標8の「公共交通に対する市民の満足度」については、次期計画のKPIの中で、実態が反映できる調査方法を検討したい。 (2) <u>報告第2号 久留米市地域公共交通計画の策定に向けた現状分析と課題について</u> 〔主な説明内容〕 ・ 次期計画策定に向けた現状分析と課題について、以下の内容を説明。 1. 計画の概要 2. 計画スケジュール 3. 地域区分 4. データ分析（社会情勢、人口情報、地域特性情報、交通ネットワーク情報、交通サービス利用情報、潜在需要） 5. データ分析から見える課題（公共交通軸と拠点の観点、「交通空白」における移動の観点、持続可能性の観点）

項 目	内 容
議事概要	〔報告第 2 号主な質疑応答〕 (委員) 資料 P10 で路線バス福島線の利用者数が多いのはなぜ？ (委員) 沿線に高校・大学・病院等があり、需要が高い路線であるためだと考えられる。 (会長) 路線バスの利用者数は、鉄道がないところが多く、鉄道と並走するところが少ない。また、資料 P6 の免許返納状況の資料で免許返納者が多い地域である青峰地域はバス路線も充実している。 バスの所要時間も重要な視点である。何を改善すれば、利用者数が増えるのかを考えていくべきである。 (委員) 「交通空白」とは、空間的だけでなく時間的な視点も重要。本当に困っている人はどこにいるのか？人はどこに外出しているのかをデータで見えていくべきである。その需要が多いところに対応していけばよい。 (委員) 資料 P5 の運転士不足のグラフ上の高齢者とは、何歳以上を指すのか？ (事務局) 65 歳以上を指す。 (委員) ①資料 P7 の路線バスの 1 日当たりの乗降客数が R3 年度に増えている理由は分かるか？ ②よりみちバスの「供給過多」という表現の意味を教えてください。 ③資料 P13 の市民アンケートの結果に「公共交通が運行していない地域における交通サービスの提供や充実度」と指標 8 の市民の満足度は、同じものか？ (事務局) ①R3 年度に増えている理由は分からない。 ②夕方の便は、ほとんど乗降客がいないのに運行しているという意味である。 ③資料 P13 の市民アンケートと指標 8 のアンケートは、別物である。 (会長) 資料 P12 の北野地域よりみちバスは収支状況も厳しい。この状況をどう改善していくか？「供給過多」及び「公共交通が運行していない地域における交通サービスの提供や充実度」という表現は再考した方がよい。 6 意見交換 <u>テーマ「久留米市地域公共交通計画の策定に向けた現状分析と課題について」</u> 〔主な説明内容〕 (事務局) 久留米市地域公共交通計画の策定にあたり現状の課題について、専門的・利用者支援の立場からご意見を頂きた

項 目	内 容
議事概要	い。 ※議長より、委員それぞれに意見を求めた。主な意見を記載 ・データに基づく議論により、市民の納得度も高まると思う。ICデータの提供など協力していきたい。 ・運転士不足と高齢化が課題である。待遇面の改善により何とか流出を食い止めている現状。 ・大型車両を必要な区間にしっかり割り当てられるよう努めたい。 ・近年、弊社の路線バス利用者は増加している。ICカードを導入し利用促進に努めている。渋滞や天候による遅延が課題と認識している。 ・弊社（路線バス）も運転士不足と高齢化が課題。現在、土曜日も日祝日ダイヤで対応し、補っている。今後、運転士が増えれば、そういった暫定措置も基に戻していきたい。 ・甘木線のみコロナ禍より利用者数が回復しているのは、当該路線が通学利用が主であることが要因と考えられる。新たに通勤の利用促進を行いたい。また、よりみちバスとの連携を図り、鉄道の活性化を図りたい。 ・最近、物価変動のスピードが速く、状況が深刻化している。燃料だけでなくオイルや人件費も高騰している。バス業界の平均年齢は55歳と高く、若年層の確保が課題である。また、新人教育をするための研修費用や大型二種免許の取得支援費用がネックになっている。 ・近隣自治体ではデマンド交通を導入した結果、タクシー会社が閉業した事例がある。行政と事業者の協議を十分に行ってほしい。自家用車から公共交通への転換が課題と考える。 ・地域ごとに適切な交通サービスを検討する必要がある。利用が見込める地域に対し、需要にあった交通サービスを導入すべきである。 ・地域輸送資源のフル活用が大きなキーワードになってくる。地域と共創し、交通サービスを維持していく必要がある。 ・県下で運転士不足は、どこでも起こっている。運転士の体験会などを行い、採用に向けた支援を続けていきたい。 ・路線存続が危ぶまれる状況であるため、沿線自治体や交通事業者と連携して利用促進等の取組みを進めたい。 ・よりみちバス存続の要望が上がっている。どうやって利用者を増やし、経費を落とせるか、地域も一緒に考えていきたい。独自の取組みとして、民生委員が巡回時によりみちバスの紹介をする取組みも実施している。また、地元の祭りと連携し

項 目	内 容
議事概要	て利用促進にもつなげていきたい。 ・西部地域にとって、よりみちバスは重要な交通サービスである。老人クラブ、自治会、社会福祉協議会等と連携して、利用促進に努めたい。 ・身障者にとって、ちょっとした手助けがあると乗降がスムーズになる。公共交通の利用促進のためにも、皆さんの協力があると助かる。 ・タクシーを呼んでも中々来ないというケースがある。 また、バスの定時性を確保してほしい。バスの位置情報が分かるバス停があれば、便利になり利用者も増えるのではないかな。 ・高齢者にとって、免許返納後の対応が重要であり、出かける機会が減れば認知症が進む。免許返納がしやすい環境、外出したくなる仕掛けづくりが必要だと考える。 保育園の送迎が大変という声もよく聞く。子育て世代の意見も聴取してほしい。 ・西鉄甘木線沿線の三井中央高校の廃校で、利用者が 100 人程度減ったのではないかなと思う。沿線自治体、交通事業者と連携して利用促進を実施していきたい。 よりみちバスの収入減は、定期券の安さが要因と考える。高齢者だけでなく子供も利用できる乗り物になればいいと思う。 ・交通部門だけや都市建設部だけで解決できない課題が出てきている。 外出の予約時間と合わせる交通サービスでないと利便性が確保できない。 公共交通利用者を増やす取り組みとして、独自にエコ通勤デーを実施しているが、ぜひ各事業者も取り組んでいただきたい。 ・国道 3 号や 209 号の渋滞緩和に向けて対策を検討していきたい。 ・デマンド交通の導入によりタクシー事業者が撤退したという箇所もあるが、逆にタクシー利用が伸びたという事例もある。 デマンドが使えない時に、タクシーを使うという好循環が生れれば良い。 外出の目的も併せて創出すると効果的ではないかな。 ・交通空白に対しては、空間的な空白のみでなく、時間的な空白がないかを検証されたい。よりみちバスの最終便の利用が少ないという状況であれば、その時間だけデマンド化することも考えて良いのではないかな。

項 目	内 容
	コミュニティタクシーの区域外利用は、タクシーの利用を阻害している。制度の見直しが必要と考える。 福岡市の AI デマンド交通の事例を紹介。利用者、地域、交通事業者が一体となった取り組みが必要である。 どこにどれだけ困っている人がいるのか？を見極めて交通サービスを効率的に投入していくべき。データで示して議論をしてほしい。 地域の病院等の無料送迎とルートが重複していないかを確認することも重要である。 ※議長より総括。 鉄道、バス、タクシー、コミュニティ交通が連携を図ってサービスの効果を高めていきたい。 城島、上津、青峰など鉄道から外れている地域は、路線バスに頼らざるを得ない。こういった地域の路線バスは、しっかりと幹線として機能させるとともに、幹線につなげるフィーダー機能も重要になる。 道路渋滞に巻き込まれることによる幹線の遅れが生じている。渋滞対策も併せて取り組む必要がある。 インバウンドが、北野や城島地域に来ている。公共交通をしっかりと使用してもらう工夫が必要である。 通勤者のマイカー利用が増えてしまい、路線バスの利用者がピーク時の 9 万人／日から 1.5 万人／日程度に落ち込んでいる。公共交通利用の通勤者を増やしていくことが重要である。公共交通を利用しやすい環境づくりとして、MaaS の普及が必要である。 7 その他 〔主な説明内容〕 第 2 回会議の予告：令和 8 年 8 月 3 1 日（月） 1 4 時～ 久留米商工会館 8 閉 会

令和 8 年度 第 1 回久留米市地域公共交通会議 議事録

項 目	内 容
署名	令和 8 年度第 1 回久留米市地域公共交通会議の議事は、上記に相違ありません。 令和 8 年 7 月 2 / 日 久留米市地域公共交通会議 会長 牧野 浩志

久留米市地域公共交通会議 委員名簿

No.	委員区分 第4条	所 属	委員名	備考	R8.6.30出欠		
					会場	Web	代理出席者
1	第1号	久留米市	副市長 牧野 浩志	会長	◎		
2	第2号	西鉄バス久留米株式会社	取締役営業本部長 下條 寛顕	【交代】	◎		【随行】営業部長 宮崎 透 【随行】係員 吉原 智也
3	第2号	堀川バス株式会社	取締役統括部長 田中 智太郎		◎		
4	第2号	株式会社甘木観光バス	代表取締役 池野 栄次		◎		
5	第3号	九州旅客鉄道株式会社久留米駅	駅長 大原 邦秀		×		
6	第3号	西日本鉄道株式会社鉄道事業本部計画部	計画課長 平野 真孝	【交代】	○		計画課係長 恩田 佳明
7	第4号	一般社団法人福岡県バス協会	専務理事 河津 隆幸		◎		
8	第5号	福岡県筑後地区タクシー協会	会長 中川 恵司		◎		
9	第5号	久留米市タクシー協会	会長 篠倉 博光		◎		
10	第6号	久留米市校区まちづくり連絡協議会	幹事 山口 貴將	監事	◎		
11	第6号	久留米男女平等推進ネットワーク	会長 永松 千枝		◎		
12	第6号	NPO法人ル・バトー	理事 佐々木 久美子		◎		
13	第6号	NPO法人高齢者快適生活づくり研究会	代表理事 吉永 美佐子		◎		
15	第7号	国土交通省九州運輸局福岡運輸支局	支局長 永松 靖二		○		首席運輸企画専門官 牟田 嘉伊座
16	第8号	西鉄グループバス労働組合	福岡本部執行委員長 茂島 健嗣		×		
17	第9号	国土交通省福岡国道事務所	計画課長 長 靖朗	【交代】	○		計画課 専門官 木場田 豊
18	第9号	福岡県久留米県土整備事務所	地域整備主幹 福田 幸司	【交代】	×		
19	第9号	久留米市都市建設部	部長 城戸 康介		◎		
20	第10号	久留米警察署	交通第一課長 外林 一穂	【交代】	×		
21	第10号	うきは警察署	交通課長 森 哲也		×		
22	第11号	福岡大学工学部	工学部長 教授 辰巳 浩	副会長	◎		
23	第11号	大分大学経済学部門	教授 大井 尚司			◎	
24	第12号	福岡県市町村・地域振興部空港・交通政策局交通政策課	課長補佐 安成 健一郎	【交代】	○		主任主事 本村 綾平
25	第12号	久留米商工会議所女性会	会長 西野 恵子	監事 【交代】	◎		
26	第12号	久留米市身体障害者福祉協会	理事 田村 美雪		◎		
27	臨時	城島地域生活交通検討会	座長 鐘ヶ江 益三	【交代】	◎		
28	臨時	城島地域生活交通検討会	副座長 境 佳芳子		×		
29	臨時	北野地域生活交通検討会	座長 田中 文明	【交代】	◎		
30	臨時	北野地域生活交通検討会	委員 脇田 量子	【交代】	◎		
31	臨時	大刀洗町企画財政課	課長 福岡 信義	【交代】	◎		【随行】企画監 辻 美貴善
32	臨時	みやき町事業部まちづくり課	課長 太郎浦 文和	【交代】	×		
-	ワザ・バー	国土交通省九州運輸局交通政策部交通企画課	課長 小堀 まろり		◎		【随行】係員 江田 樹里